

アルミ輸入、一部を除き増加

橋本金属 橋本健一郎氏リポート②
◆アルミ

■概況

二月前半は一月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)が前月比〇・五ポイント低下の五〇・五と半年ぶりの低水準だったことや一月のユーロ圏総合PMI改定値は五二・九、サービス部門は五一・六に下方修正。十二月のユーロ圏小売売上高は前月比一・六%減少、予想の〇・五%減を下回るなどマイナス材料はあったが、外因支出は前月比〇・四%増と市場予想を上回ったことさらに中国の一月のアルミおよびアルミ製品輸入は同五三・六%増の一一万〇〇〇〇トン、アルミ新地金の輸出は一一・八%増の三二万〇〇〇〇トンだったことを好感、LMEアルミ相場は一・七〇六ドル(現物後場買)と前月最終価格から二四ドル上昇しての前半締めとなつた。

後半は米FRBイエレン議長の議会証言を受けて米国の緩和的な金融政策が長期化するとの期待や、4Qのユーロ圏GDP速報値は前期比〇・三%増加、予想の〇・二%増を上回り、十二月のユーロ圏貿易収支は一三九億ユーロの黒字で、輸出入ともに前年比増加するなどのプラス予想の八・五〇を下回る。二月のNAHB住宅市場指數は四六に低下、予想の五六を下回り、二月ユーロ圏総合PMI速報値は五二・七に低下、予想の五三・一を下回つたことや、ウクライナ情勢の緊迫から下落、三月四日現在、LMEアルミ相場は(現物後場)一・六七八ドルと前半締めから二八ドル下落してのスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート(TTM)

一〇一・九六→一〇二・〇八(円)

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一四・五%増の八六万〇、八〇万台であつた。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一五%増の三三万台、一七六台。

◆新設住宅着工戸数

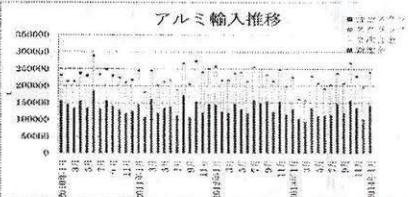
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一二・三%増の七万七、八四三戸

であった。

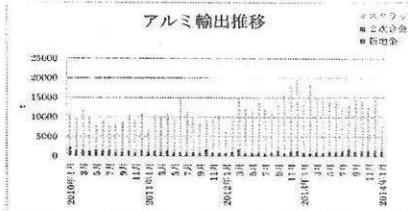
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比四一・一%増の一七五t、二次合金が三三・九%増の九九五t、スクラップが五〇・二%減の六、三六一t。輸入は新地金が前年比七・七%増の一四万一、八九五t、二次合金が三・九%増の九万四、八一〇t、スクラップが三五・四%減の七四三t、合金スクラップは三四・三%増の四、〇九七t。

	11月	12月	1月
新地金	12万4617t	10万2410t	14万1895t
前年比	+13.1%	+11.5%	+7.7%
二次合金	9万1894t	9万4634t	9万4810t
前年比	-0.1%	+11.8%	+3.9%
スクラップ	880t	797t	749t
前年比	+39.5%	+17.9%	-35.4%
合金スクラップ	5373t	3864t	4097t
前年比	+73.8%	+67.9%	+24.3%



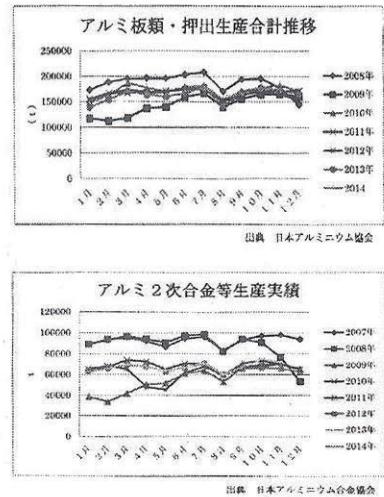
	11月	12月	1月
新地金	114t	126t	175t
前年比	+60.2%	+11.3%	+41.1%
二次合金	1340t	1314t	995t
前年比	+28.7%	+10.1%	+33.9%
スクラップ	11106t	14145t	6361t
前年比	+36.2%	+22%	+50.2%



■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比一〇・五%増の一五万三、二八九t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比〇・八%増の六万七、〇二三tであった。(六面へ続く)

(四面より続く)

(昭和33年5月10日)
(第三種郵便物認可)

るスクラップ以外は内需好調により輸入増。
【アルミニウム需給に関して】
住宅関連は新設住宅着工数が前年比一二・三%増の一七力月連続増加、貸家一一・五%増、分譲マンション一八・六%増。消費税前の駆け込み需要から依然好調さが伺える。今後の動向に期待。

自動車は生産が五力月連続上昇の一四・五%増。さらに二月の国内販売台数が前年比一五%増と大幅増。前月に続き予測通り販売増につられて生産が増加。どちらも発生難から引き続き供給不足が続くとの見解。ただ企業決算時期もあり、積極的な買いは手控えられるのではないか。

【アルミニウム価格に関する】

今月は中国の動向およびウクライナ情勢に左右される。

中国の動向に関しては中国人民銀行がレートの引き下げを突然の行つたこと、二月の中国HSBC製造業PMI改定値は四八・五に上方修正したもの、景気の分岐点となる五〇を下回つ半年ぶりに好不況の境目となる「五〇」を下回つたこと、中誠信託、吉林信託が発行した理財商品が期日までに償還されなかつたことなど後退懸念は強い。ウクライナ情勢に関してはロシア軍がウクライナ南部のクリミア半島に侵攻。ロシアの軍事介入を見て主要国G7はロシアで行われる予定のG8サミット準備会合への出席を取りやめるなど、経済への悪影響が急速に広がつており、今月中の解決は難しいのではないか。

それらを踏まえたアルミニウム価格、上値は、中国が後退懸念に対する対策をだし、ロシアがウクライナからの撤退をした場合、二月後半高値のもう一段高の一、八〇〇ドルを予測。いずれかの場合は一、七五〇ドル。

下値は前記の景気対策が期待外れとなつた場合や、ウクライナ情勢の緊迫化が続いた場合、二月後半もう一段安値の一、六〇〇ドルを予測。

スクラップ価格について、LMEアルミニウム価格は先月の水準から七五ドル(約四%)程度下落。住宅、自動車販売の堅調や消費税増税前の駆け込み需要からの需給ひっ迫はあるものの、中国景気後退懸念やウクライナ情勢の緊迫化問題が響いている。また為替が一〇二円台の円高水準で膠着していることから、据え置きの一〇円下落との予測。為替は前記景気対策やロシア軍の撤退が行われた場合、下値はドル高・円安から二月後半安値の一〇三円。上値は景気対策や撤退を行わなかつた場合、失望感から九九円まで円高が進むとの予測。